

防衛講演会

講師 宗像 久男 氏

日時 平成23年12月6日(火)

場所 高知市
(高知県立県民文化ホール)

演題 「内外情勢と我が国の防衛」 (要旨) ～厳しい環境の中、我が国の防衛はいかにあるべきか～

宗像講師は、先ず東日本大震災発生前の東北方面総監・発生後の頻繁な現地視察・福島県出身の実体験から東日本大震災の破壊力・自衛隊の投入隊力の巨大さを阪神淡路大震災と比較説明し、かつ地元50普連はじめ最後の砦・実力集団である自衛隊等の現地での活動・活躍状況や日本を襲った巨大地震と高知県の南海地震の歴史・宿命と対応を述べた。

次いで防衛問題に移り、周辺諸国特に北朝鮮・ロシア・中国の軍事力増強速度と我が国への圧迫の異様さ、日本の防衛態勢の劣化度を具体的データと映像を駆使し、かつ自身の自衛隊勤務、北方領土視察や台湾との交流経験等を交え分かり易く説明し、単独防衛が困難な現状における我が国の進むべき道としては「日米同盟の強化」「日本の防衛態勢の強化」「国民全体の質の向上」を挙げ、「今、舵を切らなければ間に合わなくなる！」と警鐘を鳴らした。

最後に「自衛隊は、戦後日本人が失ったものを保持している質の高い集団・最後の砦である」「国、大なりと言えども戦いを好まば必ず滅び、天下、安らかなりと言えども、戦いを忘れなば必ず危うし」「尖閣問題はこれからが正念場」と締めくくったが、特に中国外務省から流出したと言われインターネットに掲載されている日本を東海省・日本自治区に2分割した2050年の日本占領図は聴衆に衝撃を与え脅威に現実味を添えた。

講演は豊富な経験・知見と明確丁寧な図示説明資料に加えユーモアを交えた和やかな語り口で約600名の聴衆を終始魅了し、密度が高く終了が惜しまれた大成功の防衛講演であった。